

日中戦争…中国への全面的な侵略を開始

1937(昭和 12)年 7 月 7 日、北京郊外の盧溝橋(ろこうきょう)で日中両軍が衝突しました。近衛内閣は、日本軍に華北一帯を攻撃させ、さらに上海にも戦線をひろげ、宣戦布告のないまま、日中戦争を開始しました。

攻撃態勢の日本軍



南京城に突入、軽装甲車隊



(写真出典 『日本の戦争 2』 毎日新聞社)

南京大虐殺

日本軍は、首都南京に侵攻したさい、兵士だけでなく、婦女子どもをふくむ市民を殺害し、総数 20 万人以上にもおよぶ虐殺事件をおこしました。

広大な中国大陸に進出した日本軍は、都市などの軍事拠点と、鉄道や道路などの補給線を占領することしか出来ず、「点と線」とよばれる状態で、共産党の指導する八路軍のゲリラ戦術に悩まされました。そして、長期戦となりました。華北では、日本軍はその根拠地をおそって人々を皆殺しにし、あらゆる物をうばい、焼き払うという三光作戦をおこないました。

(写真出典 『日本の戦争 2』 毎日新聞社)

南京での犠牲者



(写真『日本の戦争 7』ほるぷ出版 『日本の戦争 2』毎日新聞社)



戦時体制…戦争遂行優先、国民の権利や自由を制限

軍事教練(大阪女子薬学専門学校)



(写真『日本の戦争 2』毎日新聞社)

女学生も慰問袋作り



政府は、日中戦争が始まると、国民精神総動員運動をすすめ、社会運動をはじめ、戦争に協力しない言論や思想・宗教を厳しく取り締まりました。

1938(昭和 13)年には、国家総動員法を定め、国会の審議なしで政府の命令によって国民を徴用して働かせ、資金や物資の全てを戦争のために統制できるようにしました。